

## アジアと世界そして関西を結ぶ ゲートウェイとして更なる発展を



関西国際空港株式会社  
代表取締役社長

福島 伸一

関西国際空港は平成6年の開港以来、大きな事故もなく、おかげさまでこの9月で開港15周年をむかえます。これもひとえに関空をご支援いただいている皆さまのおかげであると、心より感謝申し上げます。

2007年8月、限定供用という形ではございますが第2滑走路がオープンし、関空は日本で唯一の長距離滑走路を2本持つ完全24時間空港となりました。ようやくグローバルスタンダードに合う国際空港が国内に誕生したわけですが、その後起こった世界同時不況や、新型インフルエンザの影響などで、旅客・貨物ともに需要が落ち込み、なかなか回復の兆しが見えてこない厳しい状況が続いています。

このようななかでも関空は、国家をあげての空港戦略を持つ仁川、上海といった世界のライバル空港と互角に競争していかなければならず、そのためには2つの問題を解決する必要があります。

まず一つは当社の財務構造の抜本改革です。関係のみなさまのご支援のおかげで国土交通省で最重要課題として検討いただいております。今月末の概算要求では一定の道筋が示されるものと期待しております。

二つめはネットワークの拡充です。国内線の減便や欧米線が伸び悩む現状で、ネットワークの拡充は緊急の課題です。そのためには、エアポートプロモーションの強化や、利用促進ツアーの造成といった施策を一層重点的に行っていく必要が

あると考えています。

アジア・中国に距離的にも歴史的にも非常に近い関空は、アジアのゲートウェイ・国際拠点空港として、関西・西日本にとってはもちろん日本全体の発展・活性化にも貢献することが可能です。二つの課題を早急に解決して、完全24時間空港という関空の強みを活かし、国際貨物ハブ空港としてパネルベイをはじめとする関西・西日本の旺盛な物流に対応していきたいと思っています。

また関空は、お客様が来られて「楽しいな」、「ぜひ、もう一度来よう」と思っただけのような利便性の高い、「おもてなしの心」がある場所でありたいと思います。そのためのひとつとして、旅客ターミナルビルの出国審査場を出たエリア（トランジットエリア）で開港以来初となる大規模改修を行っています。24時間運用の空港として深夜便や乗り継ぎ便のお客様のニーズに対応するリフレッシュ施設などを整備し、また免税店をはじめとする商業施設の拡張・充実を図り、国際拠点空港にふさわしい空間として今年12月の先行オープン、来年春のグランドオープンを目指します。

これからもお客様の安全・安心を第一に考えるとともに、すべてのお客様や地元の皆様のご期待に答えるために、便利で快適な空港を目指して取り組んでまいります。

今後とも変わらぬご理解・ご支援の程よろしくお願い申し上げます。